

米成人 一人
麥成人 一人
糯成人 一人
日當 日當 日當 日當

地方名	改善前	改善後	減少率	改善前	改善後	減少率	改善前	改善後	減少率	改善前	改善後	減少率	改善前	改善後	減少率
庄内地方 (六箇町村)	五〇六	四九二	〇・二四	二二七	二二五	一六四	四九五	〇・三六	〇・六八	五〇六	四九二	〇・二四	二二七	二二五	一六四
置賜地方 (四箇町村)	四九一	四八二	〇・〇四	〇・八一	〇・〇四	〇・〇四	四九一	〇・〇四	〇・〇四	四九一	四八二	〇・〇四	〇・八一	〇・〇四	〇・〇四
最上地方 (三箇町村)	四九二	四八二	〇・〇二	〇・五八	〇・五八	〇・〇二	四九二	〇・〇二	〇・五八	四九二	四八二	〇・〇二	〇・五八	〇・五八	〇・〇二
村山地方 (八箇町村)	四九二	四八二	〇・〇二	〇・五八	〇・五八	〇・〇二	四九二	〇・〇二	〇・五八	四九二	四八二	〇・〇二	〇・五八	〇・五八	〇・〇二

熱帯醫學研究所に於ける厚生醫學科の

新設

臺北帝國大學に附置せられたる熱帯醫學研究所に於ては、從來、熱帯病學科、熱帯衛生學科、細菌血清學科、化學科の四科を備へ各擔當事項の研究に當つてゐたが、南方問題の感、重視せらるゝに鑑み、更に臺灣を始めとして廣く熱帯及び亞熱帶地に於ける人口問題、體力體育問題、民族衛生、移住衛生、疫學、醫療及保健衛生制度等に關する調査、研究を行はんが

ため、昭和十六年度より新たに國民保健學科（或は厚生醫學科）なる一科が新設されることとなつた。右新設の趣旨に關し同研究所の編録せる説明を掲ぐれば以下の如くである。

説明

時局の進展に伴ひ、多岐に互る各般の國策を遂行せんが爲めには國民健康の維持向上と其の活動力の増進とに努めざる可からず。之が爲には國民各個に對する衣食住等日常生活の基準を究め、特殊疾患の豫防、診療、治療方法の研究を進むると共に、特殊の地域に住み、特定の職業に従ひ、特定の風俗習慣を有する諸種なる社會群、廣くは國民全般、小にしては市町村居住者、或は各種職業従業者、諸種族群等に對し、團體を對象としての健康状態、衛生状態を檢し、之に對する諸方策を案せざる可からず。此の方面の調査研究は上述一個人を對象とし或は研究室内實驗を主とする研究と其の態度、方法を異にし、從來は單に日常衛生行政機關の手に委ねられ居りたるも、醫學、衛生學各分科及び之が補助學たる心理學、統計學等の發達と複雑なる經濟的社會的事象の交錯とは、繁忙なる衛生行政組織の日常的活動以外に、特殊の公衆衛生學的研究機關の、設置を必要とし、斯る施設なくしては充分なる衛生行政の運用も期し難き事情にある事廣く識者の認むる所なり。これ實に本邦内地に於ても先年厚生省に公衆衛生院（昭和十五年より厚生科學研究所と改稱）設立せられ國民大衆を對象とせる公衆保健策樹立の爲の基礎的研究を遂行せんと企圖せられたる所以なり。本島臺灣に於ては其の氣候風土本邦内地と著しく相

違するのみならず、北部と南部とに於ても甚しき距離あり、住民も亦改隸以來茲に移住せる内地人の外、久しく本島に土著せる福建、廣東兩系の臺灣本島人、數種族に細區分せらるゝ高砂族等幾多の種族に分たれ、其の身體的及心理的性狀及風俗習慣を異にするを以て、島民に對する具體的衛生保健策乃至は社會福祉政策の確定上公衆衛生學的研究の必要性は一段と強きものあり。殊に本島内に於ける此種の研究は更に南支南洋方面居住者に對する調査研究の基礎たり又端緒たる可く、今此の見地に立つて特に新に本島に於て著手せらる可き主なる調査研究事項を掲ぐれば左の如し。

一、臺灣に於ける人口問題に關する

調査研究

臺灣在住各種族の性別、年齢別人口構成、婚姻率、出生率、死亡率等の精査に基き、各種族に内在する人口増殖力の實情を瞭かにし、將來本島に於ける各種族別人口の割合の豫測、國防及産業戰線に活動すべき勞業可能人員の推定等に依り本島統治の根幹に觸るゝ資料の作製に努むるのみならず、生産率、死亡率に影響を及ぼす本島内具體的なる諸事象を研究し健全なる人口對策の樹立を促さんとす。此の研究に要する統計資料は總督府企畫部にて作製せらるゝも、更に數歩を進めたる細密研究、就中出生、死亡に及ぼす疾病、健康状態、自然的及文化的生活環境等諸事象の影響に關しては人口學、醫學、統計學其の他の専門的知識に基く特殊研究を要し、今日迄斯る必要を充すべき研究機關の本島に缺除したるは各方面に痛く遺憾とせられたる所なり。

一、熱帶地居住者の體力問題に關する

調査研究

國力伸張の基礎たる我國人的資源涵養の爲には一方量的に人口の増殖を計ると共に他面質的に國民各個の活動能力を充分に發達せしむるの要あり。これが爲には國民の身體的、精神的性狀を瞭かにし其の特徴の如何に依りて職業の選擇を行ひ、疾患ある者には適當なる療養の指示を與へ、筋骨薄弱なる者或は發育期にある者には然る可き體育指導を行はざる可からず。内地の例に倣ひ本島に於ても、國民體力法は近く施行の氣運にあり、未成年者一部の體格體力現況は或る程度迄之に依りて闡明せらる可けれど、之等検査調査の方法、集計の方法等には尙専門的研究の餘地あり、其の検査人員の範圍等に就きても本島特異事情を考慮せざる可からず。更に體力法の範圍以外に屬する男女成年人に對しても尠くとも本島内居住各種族の體力規準を瞭かならしむる事、國防上、産業上將又保健上必要不可缺の事項なり。廣東、福建兩系本島人、高砂族諸種族に關する體格體力の調査は彼等の如何なる勞業に最も好適なる力を明示すべく、本島内在住内地人、就中農業移民村居住者體格體力の精査は本邦人の南方進出に際して生ずる身體的變化を瞭かにして、之に對する適當なる對應策の考究に資する所極めて多かる可し。

熱帯亞熱帶地居住者の身體發育に及ぼす生活環境就中榮養、體育の影響等は之亦特に詳細なる研究を要する部門なり。

一、極東熱帶地方に於ける民族衛生學的調査研究

臺灣を主とする熱帶地方居住各種族の體格、體質及び疾病の遺傳、竝に各種族間に於ける混血の研究は其の事項極めて重要なにも拘らず未だ本島に於て特殊の研究を見ず。

本年内地に於ては國民優生法の公布を見、遺傳病の撲滅に第一歩を進めたるも本島に於て之を施行するの適否、更に先年本島に於て施行せられたる共婚法に關聯し島民皇民化の一助として本邦内地人と島内諸種族との混血は奨勵せらる可きものなりや否や等の問題は一面慎重なる政治的考慮を要すと雖も他面極めて冷靜なる科學的探究に基き事なくしては斷じて正鵠を得たる判斷を得べからず。

島内衛生保健問題に於ける遺傳的要因の重要性、所謂遺傳病の分布狀態、島内各種族混血例の精細なる身體的、心理的調査等は熱帶地方に於ける醫事、藥事及衛生の徹底的究明を標榜する熱帶醫學研究所として之を缺く能はざる研究事項なり。

一、熱帶地諸疾患の疫學的調査及研究

マラリヤ、アメーバ赤痢等本島及其他極東熱帶亞熱帶地に流行する地方病、チブス、赤痢、流行性腦脊髄膜炎等の急性傳染病及び結核、微毒、トラホーム等の慢性的疾患の豫防制遏の爲には既述の如く單なる一個人を對象とし研究室内實驗を主としたる研究の外に、一定社會群間に如何に是等疾患が導入され、如何に傳播し蔓延するかの機轉を明かにし、個々の治療法、豫防法

を如何に結合配列して當該疾患を其の社會より驅逐するかの方途を究めざる可からず。斯る研究の爲には野外に於ける大衆的實驗を必要とし、長期間に亙る記錄の蒐集整理、精密慎重なる統計學的分析を試みざる可からず。例へば特定疾患に對する豫防注射の効果如何の如きも動物實驗に依る成績判定は比較的容易なるも一定の人間社會に對する判斷は極めて困難にして特殊の専門的考慮を要するものなり。前掲公衆衛生院に於て細菌學、傳染病學の外特に充實せる疫學研究室を設け同院に於ける衛生技術官の教程中にも疫學の授業比較的長時間を占むる所以も亦上記理由に外ならず。當熱帶醫學研究所に於ても此の方面の専門的研究室を新設し既設學科と緊密聯絡の上各科の研究業績の實際的應用に遺憾なきを期せざる可からず。

一、熱帶地に好適なる醫療保健施設に關する調査及研究

具體的には臺灣に於ける醫療機關の分布、醫院の經營狀態、島民の疾病頻度、醫療費等の調査を行ひ、此の間に於ける官公立醫療及び保健衛生施設の活動效果等を定め、其の他一般衛生行政機關、學事衛生、社會事業關係の活動を網羅して統一的なる本島内理想的醫療保健制度を樹立せんが爲必要な調査研究を行ふ。

以上を要するに、本邦内地に於ては各帝國大學部或は醫科大學研究室の外、東京帝國大學傳染病研究所、行政諸機關に附置せられたる公衆衛生院、榮養研究所(上記兩者は現在合體して厚生科學研究所と稱す)、衛生試驗所、體育研究所、人口問題研究所等の諸機關ありて特殊保健衛生問題の研究に精進し、時局柄統治政

策の徹底、延いては興亞國策の貫徹に協力しつつあるも、本島臺灣に於ては行政部關係の特殊保健衛生機關皆無にして其の機能は擧げて本熱帯醫學研究所に委ねられたる現状なり。然るに本研究所は創設日尙淺く、所内各科研究室の陣容さへ未だに充實を要するもの多しと雖も就中時局の最も要望する前記人口、體力、體育、民族衛生、移住衛生、疫學、醫療保健制度等行政部と密接なる關係を有し、當面及び永遠の國策の基礎たる可き調査研究を遂行すべき施設を有せず、茲に厚生醫學一科を新設し、衛生行政の實情にも通曉せる専門家を聘して、上記未着手の調査研究を行はしめ、併せて本所既設各科研究室の研究業績の實際的應用を促進し、以て本熱帯醫學研究所創設の目的を全からしめんとするものなり。

財團法人人口問題研究会主催第十二回人口問題同攻者會合の開催

財團法人人口問題研究会の主催なる第十二回人口問題同攻者會合は今般人口政策確立要綱の發表せられたるを機會として昭和三十五年内地人口一億の目標を中心論題として昭和十六年二月八日厚生省新館會議室に於て開催せられたが、講演後熱心なる質問もあり非常な盛會であつた。論題、講師及び講演題名を掲ぐれば次の如くである。

我國の將來人口——昭和三十五年内地人總人口一億に關聯して

講師及題名

昭和三十五年一億人口の根據——人口政策確立要綱

彙報

の目標 企畫院調査官 美濃口時次郎
我國人口の趨勢 人口問題研究所調査部長 經博 中川友長

一億人口の可能性 東京商科大学助教 小田橋貞壽
一億人口の生物學的基礎 厚生科學研究所教授 醫博 川上理一

美濃口調査官は本要綱設定に當り大和民族の老體化を防止し其の永遠の發展性を確保することを根本目標とせる點、特にソ聯邦等の隣邦諸國に對して其の増殖力の劣らざるものたるべき事を目標とせる點を純再生産率の數字等を擧げて解説、家と民族とを基礎とする世界觀の確立が根本前提たる所以を強調、中川博士は博士の計算になる我國將來人口推定の假定及結果を詳説し乍ら、出生率を昭和十年當時のものに引き上げて保持し、死亡率は今後二十年にして人口千に付十二程度迄引下げれば昭和三十五年一億の實現は可能なる所以を説明、特に人口政策は今日の歐洲諸國に見る如き人口停止或は減退状態に當面して初めて施行するに到つては殆んど效果なき事を強調して注目を惹いた。小田橋助教は今次の人口政策確立要綱中婚資貸付制度と女子就業の抑制方針とは特に農村に於て、又家族手當制度は特に都市に於いて效果大なるべきを豫想、ただ家族手當制度その他の方策も特に上層階級に屬する優秀家系者の子孫維持の爲には猶ほ不充分なるべきを指摘、民族の自覺を喚起する一方、廣義の社會經濟政策確立の必要を力説した。最後に川上博士は厚生科學

研究所内に於いて論議せられた我國將來人口推定の結果を紹介、その専門的立場よりする今後の研究方針の大綱について發表する所あつた。尙、四氏を通じて人口政策の要點は死亡の減少にあらず専ら出生の増加に重點を置くべきものなるを力説せる點特に注目を惹いた。

講演後參會者より種々活潑なる質問が行はれたが、特に那須皓博士が日滿支を通ずる内地人農業人口四割確保問題について、内地の農業人口が現在すでに飽和状態にある反面、將來滿洲國に於て收容せらるべき内地人農業人口は滿洲國自身の工業化に伴ひ内地都市人口の榮養源としては期待し難き點を指摘し、この點に更に充分研究され度き旨を發言、注目を惹いた。

中央農林協議會の東亞國土計畫要目の決定

中央農林協議會の國土計畫委員會に於ては東亞諸地域を通ずる綜合的國土計畫について昨夏決定せる「國土計畫基本要綱（本誌第一卷第六號所載）」に基き協議中であつたが、昭和十六年一月理事會に於て正式之を決定、同時に日本國土計畫機關設置に關する建議をも決定、内閣、企畫院、關係各省、對滿事務局、興亞院に之を提出した。

東亞計畫要目

第一 策定要領

一、大東亞諸地域の自然的並に社會的諸條件を考量して日・滿・蒙・支等各單位地域間に於ける人口並に施設の配分及び資源の利用開發計畫を策定する